

・RC増設壁補強標準図

RC増設壁構造特記仕様書

報告書には添付しないこと。

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は全て下記による。(現場常備すること)

国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(平成22年版)」

「建築改修工事監理指針(平成22年版)」

日本建築防災協会発行「2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」

文部科学省「学校施設の耐震補強マニュアル RC校舎編(2003年改訂版)」

2. 使用材料

鉄筋

D16以下(SD295A)、D19(SD345)、スパイラル筋(SR235)

コンクリート

$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$ 以上(普通コンクリート)、スランプ 18 cm、単位セメント量 300 kg/m^3 以上

モルタル(無収縮)

$F_m = 30 \text{ N/mm}^2$ 以上 スランプ 23~27 cm、Jロート 8 ± 2 (秒)

グラウトモルタルは、早強形特殊セメント系無収縮モルタルとし、調合はプレミックスタイプとする。

あと施工アンカー

接着系樹脂アンカー(ガラス管カプセル型、回転打撃式)

3. 樹脂アンカー工事

施工に先立ち作業員は、耐震補強用アンカーの施工講習を受けた者である証明書を監督員に提出する事。

失敗穴の処理は、躯体と同等以上の強度のモルタル等で補修する事。

樹脂アンカー試験は、「公共建築改修工事標準仕様書」による。但し、打音検査は全数に対して行うこと。

4. 注意事項

スパイラル筋や壁配筋等の材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し、これらの補強筋等を、実状に合った寸法に加工する。

増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に十分な水湿しを行う。

目荒らしの仕様

既存躯体との取合い(打継ぎ面)は、電動ピック等を用いて平均深さ2~5mm(最大深さ5~7mm)の凹面の合計面積が打ち継ぎ面の %程度の面積になるように全体にわたって行う。

既存柱・梁面 = 15~30%

既存壁面 = 10~15%

コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより密実なコンクリートとなるように十分な施工計画を立てる。

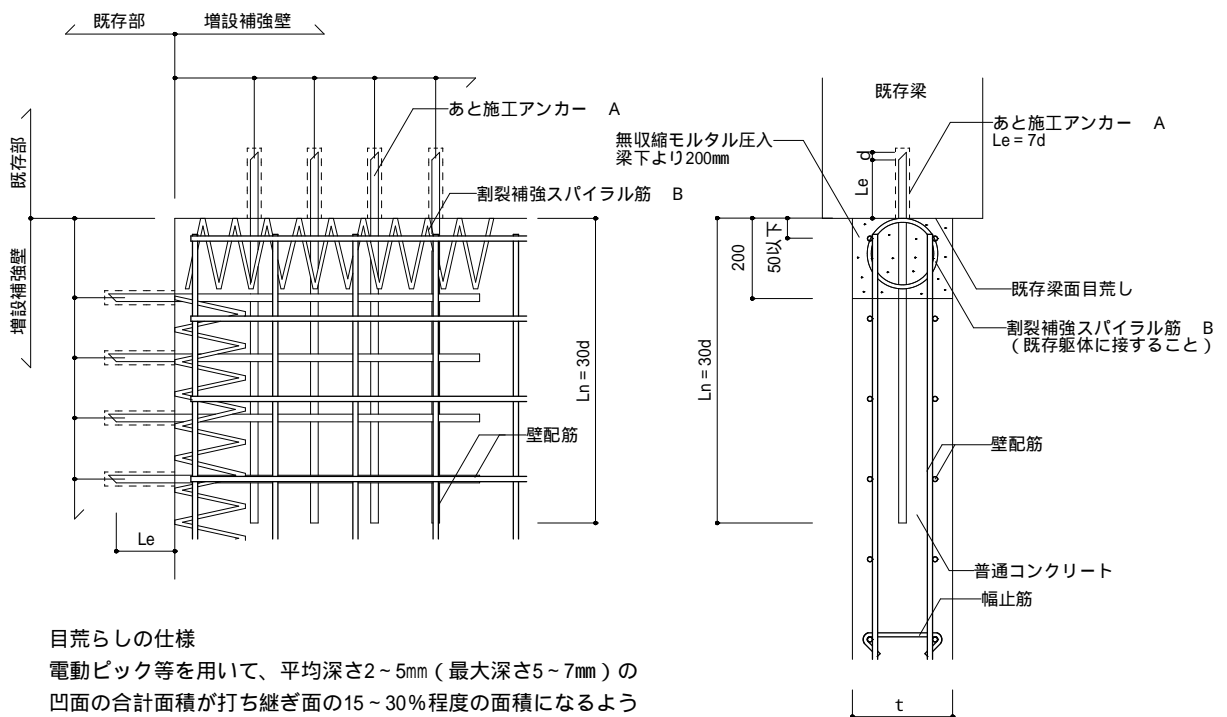
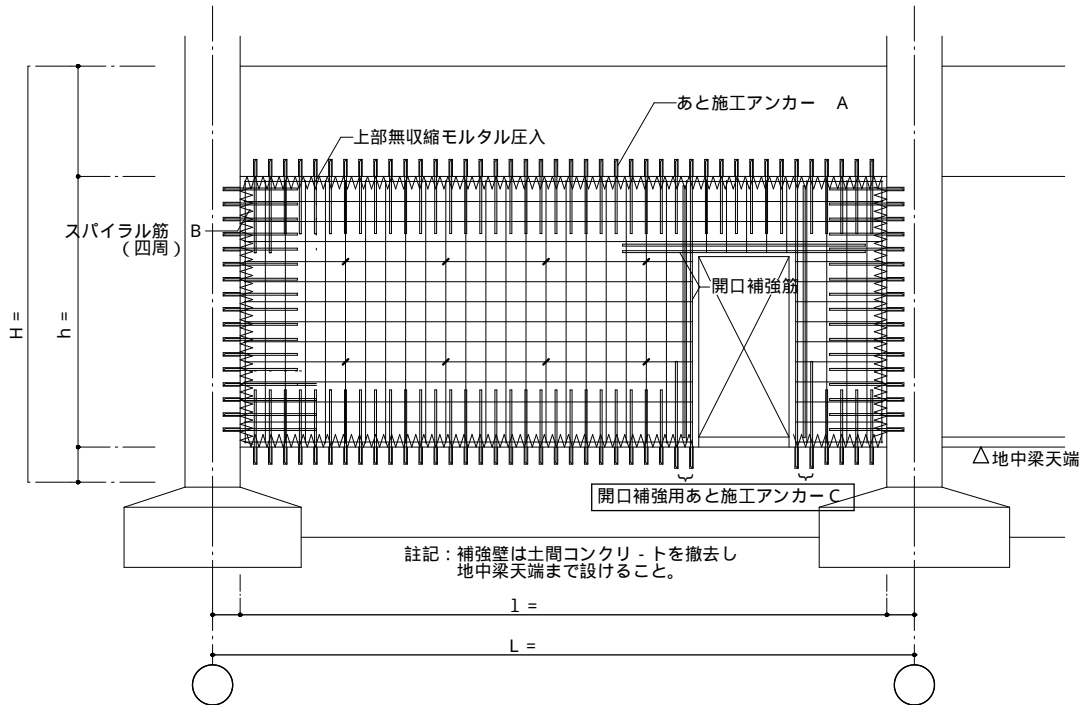
後打ちコンクリートは梁下20cmまで打設し壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。(施工計画書提出)

コンクリートの強度発現期間内は十分な湿潤状態で養生する。

また養生期間中は振動等を与えないように注意する。

R C 増設壁補強要領

1. 壁筋	タテ筋	
	ヨコ筋	
	幅止筋	
2. 開口補強	タテ筋	
	ヨコ筋	
	斜め筋	
3. 接合筋	あと施工アンカー A	有効埋め込み長 $Le = 7d$, 有効定着長 $Ln = 30d$
	割裂補強スパイラル筋 B	
	あと施工アンカー C	有効埋め込み長 $Le = 10d$, 有効定着長 $Ln = 40d$



目荒らしの仕様

電動ピック等を用いて、平均深さ2~5mm (最大深さ5~7mm) の凹面の合計面積が打ち継ぎ面の15~30%程度の面積になるように全体にわたって行う。

鉄骨ブレース補強標準図

鉄骨ブレース構造特記仕様書

報告書には添付しないこと。

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は全て下記による。(現場常備すること)

国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(平成22年版)」

「建築改修工事監理指針(平成22年版)」

日本建築防災協会発行「2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」

文部科学省「学校施設の耐震補強マニュアル R C 校舎編(2003年改訂版)」

2. 使用材料

鉄筋 : アンカー筋 : SD345(ナット付き) 割裂補強筋 : SR235(スパイラル筋)

モルタル(無収縮)

$F_m = 30 \text{ N/mm}^2$ 以上、スランプ 23~27 cm、Jロート 8±2(秒)グラウトモルタルは、早強形特殊セメント系無収縮モルタルとし、調合はプレミックスタイプとする。

あと施工アンカー : 接着系樹脂アンカー(ガラス管カプセル型、回転打撃式)

鉄 骨 : SN400B

頭付きスタッド : JIS B 1198

ボ ル ト : S10T(特殊高力ボルト)

錆止め塗料 : JIS K 5674

3. 樹脂アンカー工事

施工に先立ち作業員は、耐震補強用アンカーの施工講習を受けた者である証明書を監督員に提出する事。

失敗穴の処理は、躯体と同等以上の強度のモルタル等で補修する事。

樹脂アンカー試験は、「公共建築改修工事標準仕様書」による。但し、打音検査は全数に対して行うこと。

4. 鉄骨工事

突合せ溶接部試験は、「公共建築改修工事標準仕様書」による。

第三者による超音波探傷試験とし、抜取率は工場溶接・現場溶接とも100%とする。

スタッド溶接試験は、「公共建築改修工事標準仕様書」による。 外観、打撃曲げ試験

錆止め塗装 : 工場2回塗 但し、モルタル面は塗装を行わない事。

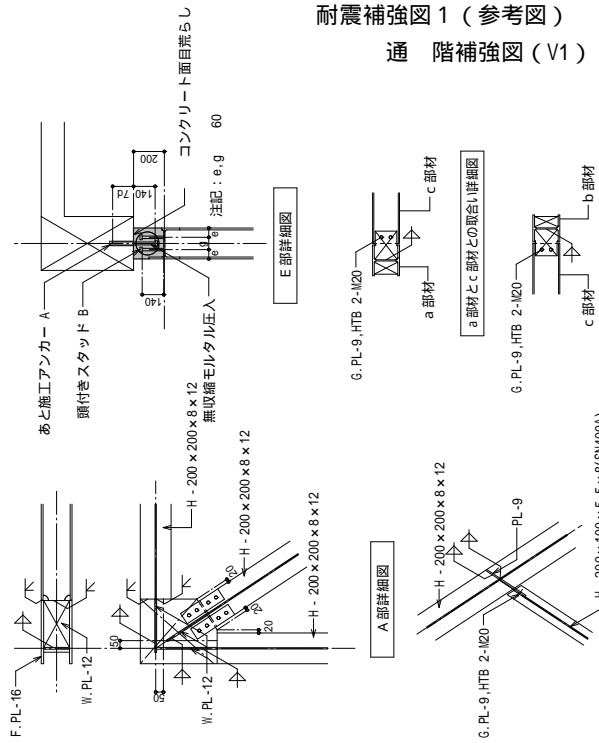
5. 注意事項

スパイラル筋や鉄骨等の材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し、これらの補強筋等を、実状に合った寸法に加工する。

増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、モルタル打設前に十分な水湿しを行う。

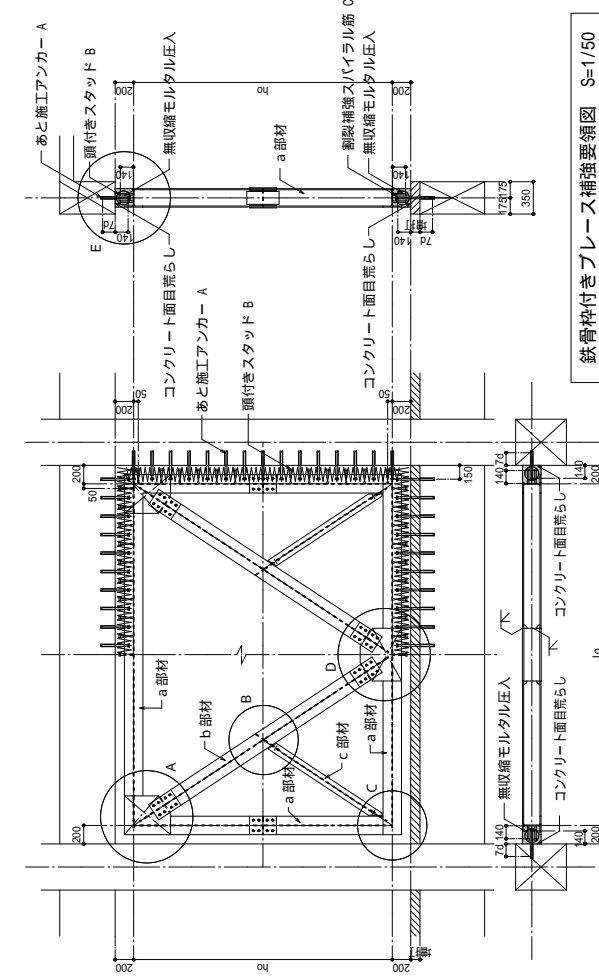
土間コンクリートで地中梁天端が1FLより下がっている場合は、土間を撤去し梁増打ちを行うこと。

部分詳細図 S=1/30



配筋補強図 1 (参照図)
通 階補強図 (V1)

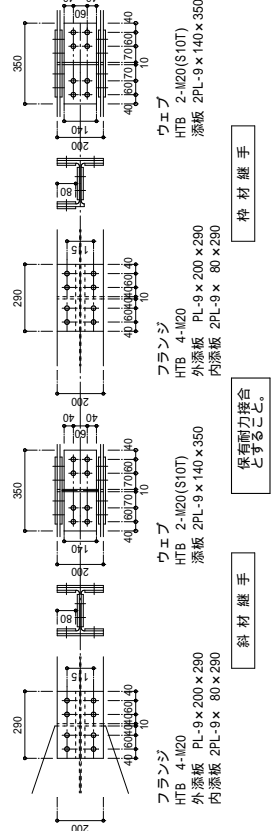
部分詳細図 S=1/30



鉄骨種付きブレース補強要領図 S=1/50

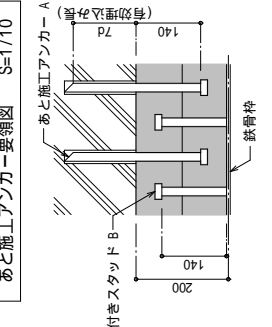
部材リスト		V1	備 考
a 部材	H - 200 x 200 x 8 x 12 (SN400B)		
b 部材	H - 200 x 200 x 8 x 12 (SN400B)		
c 部材	H - 200 x 100 x 5.5 x 8 (SN400A)		両端ピン接合とし、接合部は G.P.L-9(SN400B), HTB 2-M20とする。
あと施工アンカー	A	D19 @200シングル	
頭付きスタッド	B	16 @200ダブル	
割製補強スパイラル筋	C	6 @ 50外径150	

部分詳細図 S=1/20



部材リスト		V1	備 考
1) 鉄筋			
アンカー筋	S0345 (ナット付き)		
割製補強筋	SR235 (スパイラル筋)		
2) モルタル (無収縮)			
F _m = 30 N/mm ² 以上, スランプトン23-28mm, Jロート8±2(秒), グラウトモルタルは早強形特殊セメント系無収縮モルタルとし、 割合はブレミックスタイプとする。 下記メーカーもしくは同等品以上とする。 (ボソリス物産 マスタープロ-540グラウト) (電気化学工業 テンコアコン T-1) (A B C 商会 ノンシュリンクライトグラウト)			
3) あと施工アンカー			
接着系樹脂アンカー			
4) 鉄 骨	SN400B (特記なき部材), SN400A		
5) 頭付きスタッド	JIS B 1198		
6) ボ ル ト	S10T (特殊高力ボルト)		
7) 錆止め塗料	JIS K 5674		

部分詳細図 S=1/10



部分詳細図 S=1/10

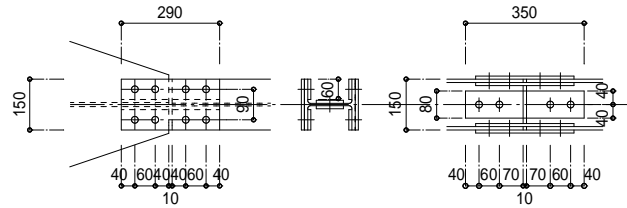
部分詳細図 S=1/10

部分詳細図 S=1/10

部分詳細図 S=1/10

鉄骨枠付きブレース 継手詳細図 S=1/20

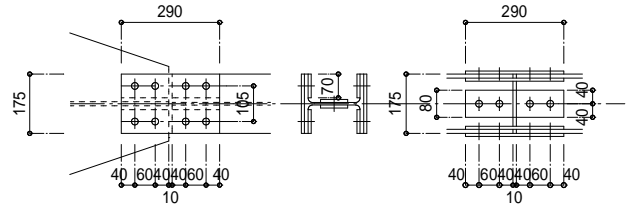
H - 150 × 150 × 7 × 10



フランジ
HTB 4-M20
外添板 PL-9 × 150 × 290
内添板 2PL-9 × 60 × 290

ウェブ
HTB 2-M20(S10T)
添板 2PL-9 × 80 × 350

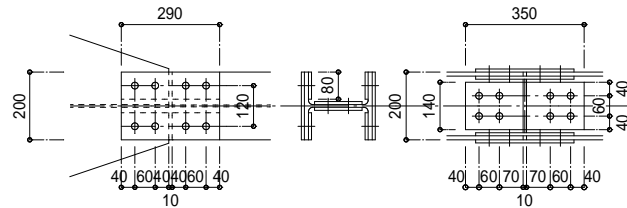
H - 175 × 175 × 7.5 × 11



フランジ
HTB 4-M20
外添板 PL-9 × 175 × 290
内添板 2PL-9 × 70 × 290

ウェブ
HTB 2-M20(S10T)
添板 2PL-9 × 80 × 290

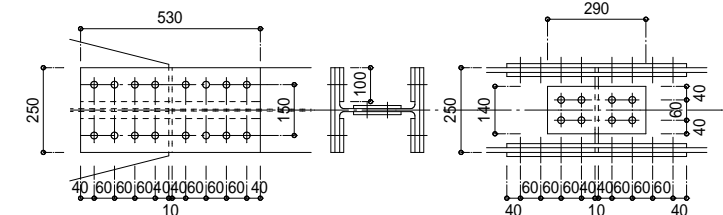
H - 200 × 200 × 8 × 12



フランジ
HTB 4-M20
外添板 PL-9 × 200 × 290
内添板 2PL-9 × 80 × 290

ウェブ
HTB 4-M20(S10T)
添板 2PL-9 × 140 × 350

H - 250 × 250 × 9 × 14



フランジ
HTB 8-M20
外添板 PL-12 × 250 × 530
内添板 2PL-12 × 100 × 530

ウェブ
HTB 4-M20(S10T)
添板 2PL-9 × 140 × 290

判定報告書

(RC 造用)

平成 年 月 日
佐賀県建築物耐震性能判定特別委員会
委員長 崎野健治

【物件名】 ○○○○学校 特別教室棟

本件は、鉄筋コンクリート構造、地上4階建の○○○○学校特別教室棟であり、○○市の委託に基づき判定申請されたものである。

本委員会は、下記について提出された資料に基づき技術的検討を行った結果、本件の申請事項に対し、現況の耐震診断及び耐震改修計画について適当であると判定する。

※ 補強が無い場合は「耐震改修計画」は記載しない。

記

§ 1. 建築概要及び構造概要

本建物は、昭和○○年に建設された鉄筋コンクリート造地上4階、塔屋1階延べ面積○○○㎡の学校校舎であり、特別教室棟として使用されている。

平面は、桁行方向72.50m（16スパン）張間方向11.01m（1スパン）からなる校舎ブロックに、屋内階段1箇所、屋外階段2箇所が張間方向に付属する形となっている。

桁行方向はラーメン構造、張間方向は耐震壁付ラーメン構造となっている。基礎構造は杭支持の独立基礎となっている。

§ 2. 耐震診断結果

- 物 名 称：○○○○学校特別教室棟
- 所 在 地：佐賀県○○郡○○町大字○○
- 用 途：学校
- 階 数：地下なし／地上4階建／塔屋1階
- 構 造 形 式：RCラーメン構造
- 基 礎 構 造：杭基礎
- コンクリート：普通コンクリート 設計基準強度 210 kg/cm² (20.6N/mm²)

	コア圧縮強度（推定強度）	診断採用値
4階	27.8N/mm ²	25.7N/mm ²
3階	23.9N/mm ²	23.4N/mm ²
2階	24.4N/mm ²	22.2N/mm ²
1階	26.6N/mm ²	25.7N/mm ²

※ 低強度の場合はコア平均強度も記載すること。

- 柱 主 筋：異形鉄筋 (SD30)
- 柱 帯 筋：普通丸鋼 (SR24) ※ 昭和40年以前の建物では採用した降伏点強度 (240 N/mm²等) を記入すること。
- 梁 主 筋：異形鉄筋 (SD30)
- 梁 肋 筋：普通丸鋼 (SR24)
- 壁 筋：異形鉄筋 (SD30)
- 準拠基準

(財) 日本建築防災協会

「2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準同解説」

「2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説」

※ 補強が無い場合は「耐震改修設計指針」は記載しない。

1 4. 現況 2 次診断結果 [耐震判定指標値 : $I_s \geq I_{s0} = 0.7$ か $C_{TU} \cdot S_D \geq 0.3$]

(使用プログラム名 ○○○○○○及び○○○○○○ Ver. ○○○)

※ 正加力、負加力を検討した場合。

方向	階数	加力方向	極脆性柱	F	E0	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定
X	4	正	有	2.25	1.29	0.93	0.982	1.18	0.52	O.K
		負	有	2.25	1.29					
	3	正	無	2.00	0.74	0.93	0.982	0.68	0.33	N.G
		負	無	2.00	0.74					
	2	正	無	1.00	0.54	0.93	0.982	0.49	0.50	N.G
		負	無	1.00	0.54					
1	正	有	1.00	0.60	0.93	0.982	0.55	0.55	N.G	
	負	有	1.00	0.60						
Y	4	正	有	1.00	2.26	0.95	0.982	2.11	2.14	O.K
		負	有	1.00	2.26					
	3	正	無	1.00	1.19	0.95	0.982	1.11	1.13	O.K
		負	無	1.00	1.19					
	2	正	無	1.00	0.99	0.95	0.982	0.92	0.93	O.K
		負	無	1.00	0.99					
	1	正	無	1.00	0.99	0.95	0.982	0.92	0.93	O.K
		負	無	1.00	0.99					

塔屋診断結果 X方向 2次診断 $I_s = 0.85 > I_{s0} = 0.7$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.87 > 0.3$ OK

Y方向 1次診断 $I_s = 4.36 > I_{s0} = 0.9$ OK

※ T指標は小数点以下3桁、それ以外は2桁とする。

※ 加力別に検討しない場合。

方向	階数	極脆性柱	F	E0	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定
X	4	有	2.25	1.29	0.93	0.982	1.18	0.52	O.K
	3	無	2.00	0.74	0.93	0.982	0.68	0.33	N.G
	2	無	1.00	0.54	0.93	0.982	0.49	0.50	N.G
	1	有	1.00	0.60	0.93	0.982	0.55	0.55	N.G
Y	4	有	1.00	2.26	0.95	0.982	2.11	2.14	O.K
	3	無	1.00	1.19	0.95	0.982	1.11	1.13	O.K
	2	無	1.00	0.99	0.95	0.982	0.92	0.93	O.K
	1	無	1.00	0.99	0.95	0.982	0.92	0.93	O.K

塔屋診断結果 X方向 2次診断 $I_s = 0.85 > I_{s0} = 0.7$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.87 > 0.3$ OK

Y方向 1次診断 $I_s = 4.36 > I_{s0} = 0.9$ OK

※ T指標は小数点以下3桁、それ以外は2桁とする。

1 5. 補強方法

- X方向に枠付き鉄骨ブレース 各階 : H-200x200x8x12、各階 : P-165. 2x7. 1 を採用している。
 3階 P-165. 2x7. 1 1箇所
 2階 H-200x200x8x12 4箇所 (内 下枠切断型 1箇所) 、 P-165. 2x7. 1 3箇所
 1階 H-200x200x8x12 4箇所 (内 下枠切断型 1箇所) 、 P-165. 2x7. 1 3箇所

1 6. 補強後の2次診断結果 [耐震判定指標値 : $I_s \geq I_{s0} = 0.7$ かつ $C_{TU} \cdot S_D \geq 0.3$]

方向	階数	加力方向	極脆性柱	F	E0	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定
X	3	正	無	2.00	0.80	0.93	0.982	0.73	0.36	0.K
		負	無	2.00	0.80					
	2	正	無	1.00	0.79	0.93	0.982	0.72	0.73	
		負	無	1.00	0.79					
	1	正	有	1.00	0.82	0.93	0.982	0.75	0.76	
		負	有	1.00	0.82					

※ 補強後の診断結果は補強により変更となった方向、階数及びゾーンのみを記載すること。RC増設壁や塔屋撤去等で建物重量が変わり I_s 等が変わる場合は、補強を行っていない方向等も記載すること。

§ 3. 診断者所見

※ 現地調査結果、現況診断結果及び補強診断結果を簡潔に記載すること。

診 断 者 : ○○○○○事務所 担当 ○○○○
 構 造 担 当 : ○○○○○事務所 担当 ○○○○
 診 断 年 月 : 平成 年 月

※ 判定報告書は原則2頁とし、最大4頁までとする。

判定報告書

(屋内運動場用)

平成 年 月 日
佐賀県建築物耐震性能判定特別委員会
委員長 崎野 健治

【物件名】 ○○○○○学校（屋内運動場棟）

本件は、鉄筋コンクリート構造（屋根鉄骨造）地上2階建の○○○○学校屋内運動場であり、○○町の委託に基づき判定申請されたものである。

本委員会は、下記について提出された資料に基づき技術的検討を行った結果、本件の申請事項に対し、現況の耐震診断及び耐震改修計画について適当であると判定する。

※ 補強が無い場合は「耐震改修計画」は記載しない。

記

§ 1. 建築概要及び構造概要

本建物は、昭和○○年に建設された鉄筋コンクリート造（屋根鉄骨造）地上2階、延べ面積○○㎡の建物であり、○○○学校の屋内運動場として使用されている。

平面は、東西40.67m（9スパン）、南北18.67m（1スパン）からなり、1階は体育室・ステージ・更衣室及び便所より構成されており、2階に卓球場・倉庫及びギャラリーを有する。

上部構造は鉄筋コンクリート造ラーメン構造、屋根は鉄骨造の鋼管トラスとなっている。基礎構造は杭支持の独立基礎となっている。

§ 2. 耐震診断結果

1. 建物名称： ○○○学校屋内運動場棟
2. 所在地： 佐賀県○○郡○○町大字○○
3. 用途： 学校
4. 階数： 地下なし／地上2階建
5. 構造形式： RCラーメン構造（屋根鉄骨造）
6. 基礎構造： 杭基礎
7. コンクリート： 普通コンクリート 設計基準強度 180kg/cm²（17.6N/mm²）

	コア圧縮強度（推定強度）	診断採用値
2階	32.9 N/mm ²	22.0 N/mm ²
1階	28.7 N/mm ²	22.0 N/mm ²

※ 低強度の場合はコア平均強度も記載すること。

8. 柱主筋： 異形鉄筋（SD30）
9. 柱帯筋： 普通丸鋼（SR24） ※ 昭和40年以前の建物では採用した降伏点強度（240N/mm²等）を記入すること。
10. 梁主筋： 異形鉄筋（SD30）
11. 梁肋筋： 普通丸鋼（SR24）
12. 壁筋： 普通丸鋼（SR24）
13. 鉄骨： SS41 $F_y = 258 \text{ N/mm}^2$
ボルト： F9T $F_u = 900 \text{ N/mm}^2$
14. 準拠基準

文部科学省大臣官房文教施設企画部

「屋内運動場の耐震性能診断基準 平成18年版」

(財)日本建築防災協会

「2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準 同解説」

「2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説」

※ 補強が無い場合は「耐震改修設計指針」は記載しない。

15. 現況2次診断結果〔耐震判定指標値： $I_s \geq I_{so} = 0.7$ かつ $C_{TU} \cdot S_D \geq 0.3$ 〕

(使用プログラム名 ○○○○○ Ver:○○○)

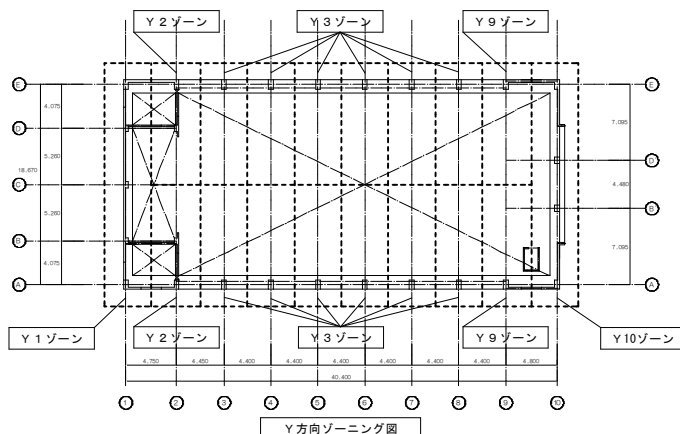
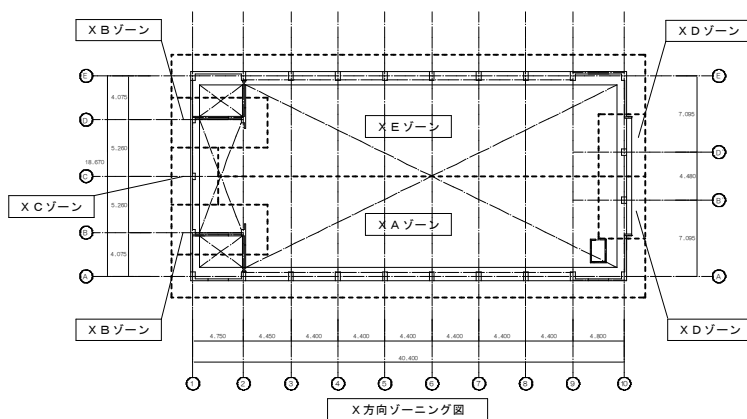
方向	階数	ゾーン	極脆性柱	F	E ₀	S _D	T	I _s	C _{TU} ・S _D	判定
X	2	XA	無	1.00	2.17	1.00	0.987	2.14	2.17	OK
		XB	無	1.98	8.99	1.00	0.987	8.87	4.54	OK
		XC(片持柱)	無	2.20	0.20	1.00	0.987	0.20	0.09	NG
		XD(片持柱)	無	3.20	1.01	0.67	0.987	0.66	0.21	NG
	1	XE	無	1.90	4.46	1.00	0.987	4.40	2.35	OK
		XA	無	1.00	1.72	1.00	0.987	1.70	1.72	OK
		XB	無	1.00	3.40	1.00	0.987	3.36	3.40	OK
		XD	無	1.13	1.68	1.00	0.987	1.66	1.49	OK
Y	2	XE	無	1.00	1.78	1.00	0.987	1.76	1.78	OK
		Y1	無	1.00	6.35	1.00	0.987	6.27	6.35	OK
		Y2	無	1.00	3.05	1.00	0.987	3.01	3.05	OK
		Y9(片持柱)	無	3.20	1.36	0.67	0.987	0.89	0.28	NG
	1	Y10	無	1.00	4.35	1.00	0.987	4.29	4.35	OK
		Y1	無	1.00	3.96	1.00	0.987	3.91	3.96	OK
		Y2	無	1.00	2.00	1.00	0.987	1.97	2.00	OK
		Y3(片持柱)	無	1.80	0.37	1.00	0.987	0.37	0.21	NG
1	Y9	無	1.00	4.13	1.00	0.987	4.08	4.13	OK	
	Y10	無	1.00	2.67	1.00	0.987	2.64	2.67	OK	

※ T指標は小数点以下3桁、それ以外は2桁とする。

ゾーニング図

※ ゾーニングの場合は必ずゾーニング図を記載すること。

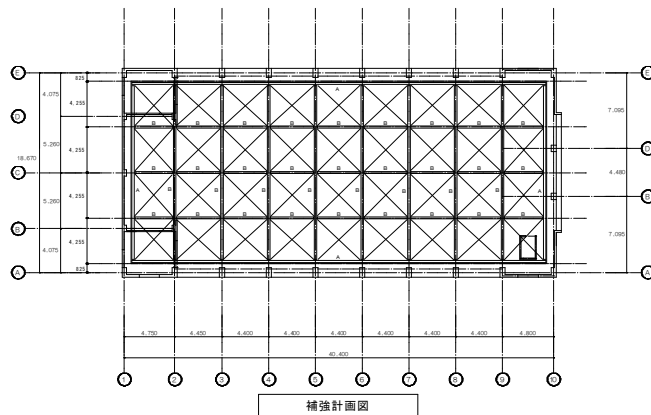
(平面図で表示が困難な場合は立面図等を付記すること。)



1.6. 補強方法

※ 簡単な補強の場合は補強図を省略してもよい。

- ・ 屋根ブレース補強 (L-75×75×12)
- ・ 既存接合部材 ([-200×80×7.5×11])
- ・ つなぎ材 (H-194×150×6×9)



補強ブレース (L-75×75×12)
 既存接合部材 (A) ([-200×80×7.5×11])
 つなぎ材 (B) (H-194×150×6×9)

1.7. 補強後の2次診断結果 [耐震判定指標値: $I_s \geq I_{so} = 0.7$ かつ $C_{TU} \cdot S_D \geq 0.3$]

方向	階数	ゾーン	極脆性柱	F	E _o	S _D	T	I _s	C _{TU} ・S _D	判定
X	2	全体	無	1.00	2.12	1.00	0.987	2.09	2.12	OK (屋根ブレース補強)
	1	全体	無	1.00	1.84	1.00	0.987	1.82	1.84	OK (屋根ブレース補強)
Y	2	全体	無	1.00	2.22	0.67	0.987	1.46	1.48	OK (屋根ブレース補強)
	1	全体	無	1.00	2.03	1.00	0.987	2.00	2.03	OK (屋根ブレース補強)

※ 補強後の診断結果は補強により変更となった方向、階数及びゾーンのみを記載すること。

§ 3. 診断者所見

※ 現地調査結果、現況診断結果及び補強診断結果を簡潔に記載すること。

診断者： ○○○○○事務所 担当者 ○○○○
 構造担当： ○○○○○事務所 担当者 ○○○○
 診断年月： 平成 年 月

※ 判定報告書は原則2頁とし、最大4頁までとする。

判定報告書

(鉄骨造用)

平成 年 月 日
佐賀県建築物耐震性能判定特別委員会
委員長 崎野 健治

【物件名】 ○○○○○学校（実習室棟）

本件は、鉄骨造平屋建の○○○○学校実習室であり、学校法人○○○○の委託に基づき判定申請されたものである。

本委員会は、下記について提出された資料に基づき技術的検討を行った結果、本件の申請事項に対し、現況の耐震診断及び耐震改修計画について適当であると判定する。

※ 補強が無い場合は「耐震改修計画」は記載しない。

記

§ 1. 建築概要及び構造概要

本建物は、昭和○○年に建設された鉄骨造平屋建、延べ面積○○○㎡の建物であり、○○○学校の実習室として使用されている。

平面は、桁行20.00m（4スパン）、張間22.00m（1スパン）の実習室に倉庫が付属する形となっている。

上部構造は鉄骨造で桁行ブレース構造、張間ラーメン構造となっている。基礎構造は直接支持の独立基礎となっている。

§ 2. 耐震診断結果

1. 建物名称：○○○学校（実習室棟）
2. 所在地：佐賀県○○市○○町
3. 用途：学校
4. 階数：地下なし／地上1階建
5. 構造形式：鉄骨造 桁行ブレース構造、張間ラーメン構造
6. 基礎構造：直接基礎
7. 鉄骨：一般鋼（SS41） $F_y = 258 \text{ N/mm}^2$
ボルト：高力ボルト（F9T） $F_u = 900 \text{ N/mm}^2$
中ボルト（F4T） $F_u = 400 \text{ N/mm}^2$
8. 準拠基準

文部科学省大臣官房文教施設企画部
「屋内運動場等の耐震性能診断基準（平成18年版）」
（財）日本建築防災協会
「既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説（2011年改訂版）」

9. 現況2次診断結果

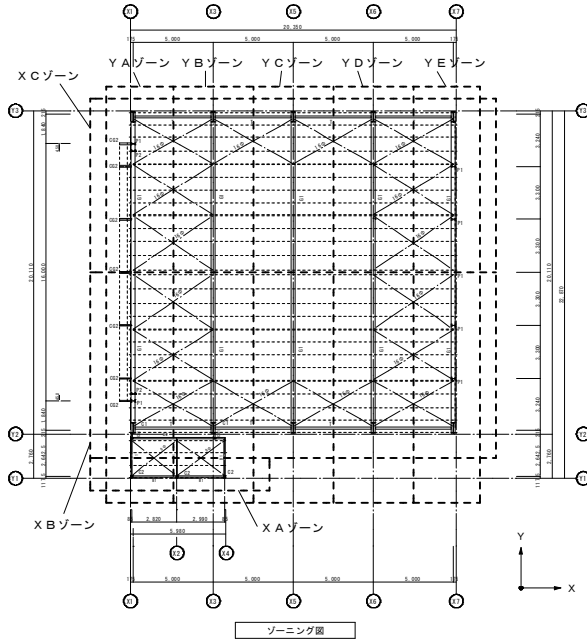
[耐震判定指標値： $I_s \geq I_{so} = 0.7$ かつ $q \geq 1.0$]

方向	ゾーン	Q_u (kN)	$\sum W_i$ (kN)	F	E_o	A_i	F_{es}	I_s	q	判定
X	XAゾーン	38.8	14.7	1.30	3.44	1.00	1.00	3.44	10.58	OK
	XBゾーン	71.0	195.3	1.30	0.47	1.00	1.00	0.47	1.45	NG
	XCゾーン	71.0	202.3	1.30	0.46	1.00	1.00	0.46	1.40	NG
Y	YAゾーン	109.7	88.7	1.00	1.24	1.00	1.00	1.24	4.95	OK
	YBゾーン	109.7	87.2	1.00	1.26	1.00	1.00	1.26	5.03	OK
	YCゾーン	109.7	73.3	1.00	1.50	1.00	1.00	1.50	5.99	OK
	YDゾーン	109.7	79.5	1.00	1.38	1.00	1.00	1.38	5.52	OK
	YEゾーン	138.7	83.4	2.50	4.16	1.00	1.00	4.16	6.65	OK

※ Q_u 、 $\sum W_i$ は小数点以下1桁、それ以外は2桁とする。

ゾーニング図

※ ゾーニングの場合は必ずゾーニング図を記載すること。
 (平面図で表示が困難な場合は立面図等を付記すること。)



10. 補強方法

- ・ X方向 軒部つなぎ梁設置 ([-200×80×7.5×11- 4箇所)
 脚部つなぎ梁設置 ([-200×80×7.5×11- 4箇所)
 既存ブレース接合ボルト取替え (中ボルトM16→高力ボルトM16)

11. 補強後の診断結果

[耐震判定指標値 : $I_s \geq I_{so} = 0.7$ かつ $q \geq 1.0$]

方向	ゾーン	Qu (kN)	ΣW_i (kN)	F	Eo	Ai	Fes	Is	q	判定
X	XBゾーン	137.3	195.3	1.30	0.91	1.00	1.00	0.91	2.81	OK
	XCゾーン	137.3	202.3	1.30	0.88	1.00	1.00	0.88	2.72	OK

※ 補強後の診断結果は補強により変更となった方向、階数及びゾーンのみを記載すること。

§ 3. 診断者所見

※ 現地調査結果、現況診断結果及び補強診断結果を簡潔に記載すること。

診断者 : ○○○○事務所 担当所 ○○○○
 構造担当 : ○○○○事務所 担当所 ○○○○
 診断年月 : 平成 年 月

※ 判定報告書は原則2頁とし、最大4頁までとする。